

不思議がいっぱい！
わくわく体験科学の広場



9月24日(日)、教育委員会主催の「わくわく体験 科学の広場」がファミリーセンターで開催されました。

このイベントは、昨今の子どもの理科ばなれを受け、「理科の楽しさを子どもたちに伝えたい！」という思いで実施されました。

会場には、小学生を中心におよそ400人が訪れ、スライムづくりや、色が変わるペンハムのこま、発電体験など、全9ブースで科学の不思議を体験しました。

講師は小中学校の理科の先生が担当し、発電体験では、関西電力(株)のみなさまにご協力いただきました。

参加した小学生は、「とっても楽しかったです。とくに白と黒のこまを回すと、他の色が見えたのが不思議でした。ぼくと友だちで、見えた色が違ったのも面白かったです。」と、感想を話してくれました。

他にも、ストローを材料に作った笛をうれしそうに吹く子、友だちと化石のレプリカを見せ合う子など、たくさん笑顔があふれ、会場は大いに盛り上がりました。

愛知用水がつなぐぎずな
篠島の子どもたちが来町

9月7日(木)・8日(金)錦津小学校に愛知県南知多町立篠島小学校の児童9名が、錦津小学校を訪れ、山の子と海の子が交流を図りました。この交流事業は、愛知用水の起点と終点を結ぶ縁で、今年で22年目を迎えました。

艇庫活動を体験し、カヌーやサップボード、バナナボートを楽しんだり、八百津が誇る「当地グルメ」ダムカレーや「イノシシ肉の焼き肉」を味わったり、マイ箸作りに挑戦したりと、充実した2日間となりました。

夕食で食べたイノシシ肉は、地元八百津町の猟友会が捕獲し、料理旅館「五宝の滝」にてジビエ肉に加工されたもので、店主の澤野さんが提供してくださいました。

篠島の子どもたちも、「ちよつと豚肉に似てるけど、もつと歯ごたえがあつて、味が濃い！おいしい！」と夢中で食べていました。

また、新しい八百津名物「ダムカレー」作りは、町内の児童も初めての体験。

「放流」ならぬ「放ル」の瞬間は、大きな歓声が上がっていました。これからも、この交流が続ぎ、心の豊かな子どもたちに育っていくことを期待しています。

